

校訓:明朗

三井楽中学校たより 第5号 文責 樹実人

~ 志をもち、郷土に誇りを持ち、郷土の誇りとなる ~ 「自己肯定感(やればできる)」「自己有用感(人、社会の役に立つ)」の高揚

2003年7月1日、2004年6月 1日、2014年7月26日…。長崎県 の小、中、高校生による世の中に大きな 衝撃を与えた事件が起きました。今の中 学生にはほとんど記憶にない過去のこと かもしれませんが、私にとっては、今で も昨日のことのように思い出すことがで きる大きな事件でした。

今年の講話では、「**いじめ**」について 考えさせ、自分の心を見つめる話をしま した。



いくつかの具体例を挙げ、上図で示しました。また、ネット上でのいじめの拡がりも 表しました。その一つひとつの行為が**、「目に見えない刃物」**として心も体も傷つけて いる様子です。自分の心の中に、刃物を持っている人はいないか?その刃物を誰かに向 けていないか?また、刃物を渡されたり、一緒に握らされようとしたときには、きっぱ りと拒否し注意できるか?等々。誰にも刃を向けないようにしよう。自分の心に刃物が できないように心がけよう。もし、刃物があるときはすぐに捨てよう。

右図は、ご存じの方も多いかもしれませ ん。1998年に亡くなった宮越由貴奈さ ん(享年11歳)が、亡くなる4か月前(小 学4年生の時)に作った詩です。5歳の時 に小児がん(神経芽細胞腫)を発病し、5 年半もの長い間、手術や入退院を繰り返し ていました。院内学級で電池の学習をした 後、「命」=「取り替えのきかない電池の ようなもの』と考え、彼女が書いた詩です。 当時は、いじめや自殺などの痛ましい事件 が多く報道されていた時でした。

「生きたくても生きられない子がいるの に、なんで自殺したり、人を殺したりする のか?なんで友達をいじめるのか?」

自分の『命』を大切にし、最後まで大切 に生きたいという思い、そして、由貴奈さ んの人に対する思いやりや、命への向き合い方が伝わってきます。



三井楽中学校の生徒は、命を尊重し、自分も周りの人も大切にし、思いやりのある生 徒がたくさんいます。命の大切さについて、きっと分かってくれると思います。

7月2日(日)は、道徳の授業で「S NSノートながさき」を活用し、ネッ ト上でのモラルや事例等から、ネット によるいじめをはじめ、『命』の大切 さについて考えを深めていきました。 3 校 時 は 生 徒 • 保 護 者 で 親 子 レ ク レ - ションを実施。皆さん笑顔で楽しん でいました。

多くの皆様のご来校、ありがとうご ざいました。

